名張事件 再審認めず

第10次請求 高裁、「新証拠」を否定

三重県名張市で1961年に女性5人が殺害された名張毒ぶどう酒事件で、名古屋高裁（山口裕之裁判長）は8日、奥西勝元死刑囚＝収監先で病死＝の妹岡美代子さん(88)が申し立てた第10次再審請求を棄却する決定をした。

弁護団は決定を不服として、同じ名古屋高裁に異議を申し立て、証人調べなど実質的な審理をするよう求める方針。岡さんは「残念で悔しい。兄は絶対にやっていません」と話した。

名張事件を巡っては、一審の無罪判決が二審で逆転の死刑判決となり、その後最高裁で確定。第7次再審請求で一度は再審開始が認められたものの、取り消される異例の展開をたどった。確定判決などによると、ぶどう酒瓶のふたに貼られていた封かん紙が見つかった公民館の部屋で農物が混入され、奥西元死刑囚以外に犯行の機会はなかったとした。

高裁は決定で、農物が確定判決認定の農薬「ニッカリンT」ではないことを示したとの実験結果や、奥西元死刑囚とは別の人物が封かん紙を貼り直したとするのりの鑑定結果、自白に基づいた再現実験など、弁護団提出の「新証拠」をいずれも否定した。

農物の実験については「事件当時、農物を特定するために使った試験器具は既に入手不可能で、条件や操作方法の詳細も分からない。再現に意味はない」と判断。のりについては、測定データからは異なる成分が検出されたと解釈することは難しく、自白の再現実験は「客観的な合理性を持つとは考え難い」とした。

奥西元死刑囚は第9次再審請求中だった2015年10月、八王子医療刑務所（東京都八王子市）で肺炎のため89歳で死去したため、岡さんが同11月、元死刑囚に代わり初めて請求した。

岩手・岩泉町長が わいせつ引責辞職

岩手日報社の女性記者にわいせつな行為をしたとして、同社から厳重抗議を受けた岩手県岩泉町の伊達勝身町長(74)は8日の町議会に辞職を申し出て、全会一致で承認された。辞職は9日付で、問題を受けての引責となった。

伊達町長は議場で、自身の体調不良に触れた上で「報道されている通り（女性記者に）『迷惑行為』をしてしまった。勤務をこれ以上継続することは不可能で、迷惑は掛けられない」と述べた。その後、報道陣の取材に「女性記者と町民の方に心からおわび申し上げる」と涙ぐんで、足早に役場を去った。

改正薬害肝炎法が成立

血液製剤フィブリノゲンなどの投与でC型肝炎に感染した被害者給付金の請求期限を、2023年1月まで5年間延長する改正薬害肝炎救済法が8日、衆院本会議で全会一致により可決、成立した。年内に公布され、施行される見込み。

被害者は国を相手に訴訟を起こし、因果関係を立証すれば、症状に応じ1200万～4千万円の給付金を受けることができる。来年1月15日の請求期限が近づいているとして、被害者らが法改正を求めていた。

法が成立してから来年1月で10年。しかし救済を受けた人は感染者数（推計）の2割程度にとどまっている。九州原告団の出田堯子代表(59)＝熊本市＝は8日、福岡市内で記者会見し「埋もれている被害者はたくさんいる。一刻も早く救済してほしい」と訴えた。

厚生労働省によると、フィブリノゲン製剤は推計約28万人に投与され、1万人以上が感染したとされる。今年11月末までに給付金を受けた人は2697人。救済が進まない要因の一つに、被害者の掘り起こしに必要なカルテの確認作業が進んでいない点がある。給付金を受けるには裁判でフィブリノゲン投与を立証しなければならず、カルテや医師の証言が必要となるが、廃院などでカルテが保管されていないケースが多いほか、未調査の医療機関もあるという。

九州弁護団によると、福岡、沖縄両県の男女6人がこの日、救済を求めて福岡地裁に追加提訴。このうち5人は提訴に死亡している。出田さんは「もっと早く投与が確認されていればと悔やまれる。もっと早く投与されていたと思うと残念」と話し、医療機関の協力を求めた。

フィブリノゲン製剤が原因と知らないままの人も多いとみられ、全国原告団の山口美智子代表(61)＝福岡市＝は「一人でも多くの方に救済法を知ってもらい、治療につなげてほしい」と訴えた。

◇ ◇

九州弁護団は平日午前10時～正午、午後1時～同3時に電話相談を受け付けている。092(735)1193。（高田佳典）

「治療一人でも多く」

九州原告団が会見

救済は2割どまり

薬害肝炎救済法が改正され、血液製剤フィブリノゲンなどの投与によるC型肝炎感染者への被害者給付金の請求期限が5年間延長された。議員立法による救済法が成立してから来年1月で10年。しかし救済を受けた人は感染者数（推計）の2割程度にとどまっている。九州原告団の出田堯子代表(59)＝熊本市＝は8日、福岡市内で記者会見し「埋もれている被害者はたくさんいる。一刻も早く救済してほしい」と訴えた。

厚生労働省によると、フィブリノゲン製剤は推計約28万人に投与され、1万人以上が感染したとされる。今年11月末までに給付金を受けた人は2697人。救済が進まない要因の一つに、被害者の掘り起こしに必要なカルテの確認作業が進んでいない点がある。給付金を受けるには裁判でフィブリノゲン投与を立証しなければならず、カルテや医師の証言が必要となるが、廃院などでカルテが保管されていないケースが多いほか、未調査の医療機関もあるという。

九州弁護団によると、福岡、沖縄両県の男女6人がこの日、救済を求めて福岡地裁に追加提訴。このうち5人は提訴に死亡している。出田さんは「もっと早く投与が確認されていればと悔やまれる。もっと早く投与されていたと思うと残念」と話し、医療機関の協力を求めた。

フィブリノゲン製剤が原因と知らないままの人も多いとみられ、全国原告団の山口美智子代表(61)＝福岡市＝は「一人でも多くの方に救済法を知ってもらい、治療につなげてほしい」と訴えた。

◇ ◇

九州弁護団は平日午前10時～正午、午後1時～同3時に電話相談を受け付けている。092(735)1193。（高田佳典）

肥薩線 有田の景観

「20世紀遺産20選」に

イコモスの国内委選定

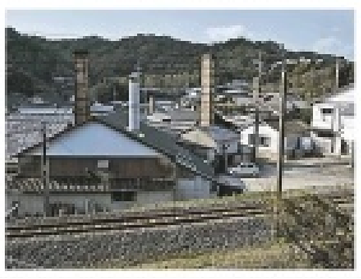
世界文化遺産の審査などに関わる国際記念物遺跡会議（イコモス）の国内委員会は8日、「日本の20世紀遺産20選」として、高速・大量輸送システムの原点となった東海道新幹線や、明治以降の建築で初めて国宝になった東京都の迎賓館赤坂離宮などを選んだ。九州からは「肥薩線―繁明期鉄道技術の日本的展開」＝写真上＝（熊本、宮崎、鹿児島県）と「有田の文化的景観」＝写真下＝（佐賀県）が選ばれた。

また、世界文化遺産に登録済みの広島市の原爆ドームに関連し「広島平和記念資料館および平和記念公園―第2次大戦からの復興」を「番外」として選定した。

20選は「多様な近現代の文化遺産に目を向けてほしい」とイコモスが初めて企画。約30カ国に選定を呼び掛け、国内では有識者約10人が4年かけて選定した。

肥薩線（旧肥後小木―吉松）は20世紀初頭に英国、ドイツ、米国から技術を導入して開業。当時の施設が現在でも使われている点が高く評価された。有田の景観は伝統的な窯業が20世紀に産業化した生きた遺産として認められたという。

イコモス国内委は、今回の選定によって保全や改修時の配慮などの機運が高まることを期待しているが、「世界文化遺産の推薦に直接結び付くものではない」としている。（川口安子）



日本の20世紀遺産

※「広島平和記念資料館および平和記念公園」は番外

- 広島平和記念資料館および平和記念公園［広島］
- 上野恩賜公園と文化施設群［東京］
- 国立代々木屋内総合競技場［東京］
- 立山砂防施設群［富山］
- 黒部川水系の発電施設群［富山］
- 瀬戸大橋＝南備讃瀬戸大橋、北備讃瀬戸大橋［香川］
- 青函トンネル［北海道、青森］
- 舞鶴の海軍施設と都市計画［京都］
- 南禅寺界隈（かいわい）の近代庭園群［京都］
- 隅田川橋梁（きょうりょう）群と築地市場地を含む復興関連施設群［東京］
- 迎賓館赤坂離宮［東京］
- 聴竹居（ちょうちくきょ）［京都］
- 神戸の大規模木造宿泊施設群［神奈川］
- 肥薩線［熊本、宮崎、鹿児島］
- 鶴岡八幡宮境内の旧神奈川県立近代美術館［神奈川］
- 有田の文化的景観［佐賀］
- 旧帝倉邸と代官山ヒルサイドテラス［東京］
- 小岩井農場［岩手］
- 西条の酒造施設群［広島］
- 東海道新幹線［東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、滋賀、京都、大阪］
- 伊賀上野城下町の文化的景観［三重］

お火たきの炎に浮かび上がる祐徳稲荷神社＝8日午後8時すぎ、佐賀県鹿島市（撮影・笠島達也）

山の神に感謝

祐徳稲荷「お火たき」

日本三大稲荷の一つ、佐賀県鹿島市の祐徳稲荷神社で8日夜、300年以上続く神事「お火たき」があった。白装束の神職が木や竹で組んだ高さ約6㍍の「お山」に点火すると、パチパチと音を立てて燃え上がり、朱色の社殿を飛らした。

お火たきは、春から秋まで田畑を見守った山の神へ の感謝を込めた送り火。お山に祈願の木札を投じると願いがかなうとされる。同神社は映画のロケをきっかけにタイからの観光客が増えており、タイ語の木札も目立ったという。

睡眠剤混入し殺害

准看護師の女起訴

千葉地検

千葉県印西市の老人ホームの睡眠導入剤混入事件で、千葉地検は8日、同県職員の山岡亜子さん＝当時(60)＝に導入剤を飲ませて交通事故死させたとする殺人の罪と、他の同僚ら5人に対する殺人未遂や傷害の罪で、准看護師被田野愛子容疑者(71)を起訴した。

地検は8月17日から約3カ月半、被田野容疑者を鑑定留置して精神鑑定を実施。刑事責任能力を問えると判断した。薬剤に詳しい立場を利用し「事故を起こして死んでも構わない」との未必の殺意があったとみている。起訴状などによると、2月5日、死亡するかもしれないと認識しながら、勤務先だった老人ホームで山岡さんに導入剤を飲ませて死亡させたとする。

NEWS

「ご当地ナンバー」に決まったモン 熊本県は8日、来年10月から県内で導入する自動車用「ご当地ナンバープレート」に、県のPRキャラクター「くまモン」を使った図柄＝写真＝を採用すると明らかにした。県民への意見募集で他の候補作を圧倒した。

プレート右上に、ちらりとこちらをのぞくくまモン。

中央部には白いシルエットをあしらい、全体には熊本の豊かな湧水を表す水色を使った。10月の意見募集で全体の6割に当たる874票を獲得。他の候補作の「ぎんなん」や「肥後六花」の図柄に倍以上の差をつけた。今後、国の審査を経て正式決定する。

ご当地ナンバーは来年8月から事前申し込みを受け付け、同10月交付の見込み。（古川大二）

名張事件 名古屋高裁決定要旨

名古屋高裁が8日、名張毒ぶどう酒事件の第10次再審請求を棄却した決定の要旨は次の通り。

【犯人性】

確定判決は、妻と愛人との三角関係に悩んだ奥西勝元死刑囚が公民館での懇親会で出されるぶどう酒に農薬ニッカリンTを混入、2人を含む5人を殺害したと認定した。

集落住民らの供述といった証拠によると、元死刑囚はぶどう酒が置いてあった公民館に約10分間1人でおり、農薬混入の機会があるのはその時間帯だけだった。犯行を認めた捜査段階での自白は不自然、不合理ではなく一貫しており、十分信用できる。犯人性は優に認められる。

【侵入された毒物】

事件後、三重県衛生研究所による試験でニッカリンTを入れた検体から特有の不純物が検出されたが、飲み残しのぶどう酒からは検出されなかったため、請求人は毒物がニッカリンTではないと主張する。だが、飲み残しから不純物が検出されなかったのは、時間の経過で加水分解されたと考えられ、科学的、合理的に説明可能だ。

請求人は、複数のぶどう酒などを使って自研究所の試験を再現し、毒物がニッカリンTではないことを示したとする試験データを新証拠として提出した。だが、当時の試験器具は入手不可能で、条件や操作方法の詳細も分からないため、試験の再現は無意味だ。

「侵入された毒物がニッカリンTとして矛盾がない」との結論は揺るがない。

【開栓状態】

「ぶどう酒瓶の王冠の外ぶたを火ばさみで開けた」とする自白の信用性を否定するため、請求人は複数した瓶24本を火ばさみで開栓する実験を実施。事件現場にあった外ぶたの変形を再現できなかったとの結果を新証拠として提出した。だが、力の入れ具合や方向といった条件しだいで同じ変形が生じる可能性は十分あり、再現実験は無意味だ。

【封かん紙ののり】

請求人は、ぶどう酒の封かん紙に2種類ののりが付着していた可能性が高いとの実験結果を新証拠として提出し、真犯人が封かん紙を一度はがして開栓、毒物を混入後に貼り直したと主張する。だが、実験結果を検証しても2種類ののりの成分が検出されたことを示しているとは考えにくい。

【犯行の再現】

請求人は、30人が元死刑囚の自白通りに犯行の準備過程を再現しようとしたが、誰一人成功しなかったとの実験結果を新証拠としたが、このような実験が客観的な意味を持つとは考え難い。確定判決までに出された証拠の中にも再現実験による検証があり、犯行準備に関する自白は信用できる。

【結論】

請求人の新証拠は、無罪を言い渡すべき明らかな証拠に当たらず、再審請求には理由がない。

肥後に当せん者 が分かることはありません

第4811回ナンバーズ

全国自治宝くじ（8日）
（カッコ内は当せん口数）
【ナンバーズ3】
ストレート 937
11万6300円（ 34）
ボックス
1万9300円（ 354）
セット ◇ストレート
6万7800円（ 120）
◇ボックス
9600円（ 1071）
ミニ下2ケタ 37
1万1600円（ 495）
▽販売実績額
7804万1400円
【ナンバーズ4】
ストレート 0382
140万2800円（ 6）
ボックス
5万8400円（ 335）
セット ◇ストレート
73万600円（ 29）
◇ボックス
27万9200円（ 1595）
▽販売実績額
2億1912万2800円

第242回ロト7

全国自治宝くじ（8日）
【本数字】
01、05、13、17、31、32、35
【ボーナス数字】
19、24
◇1等
該当なし（9口）
◇2等
1018万2000円（ 2）
◇3等
（95口）135万4000円
◇4等
（5229口）1万4300円
◇5等
（83427口）1100円
◇6等
（150343口）1100円
▽キャリーオーバー
7億2147万7315円
▽販売実績額
2億2164万3000円

【注】1等は当せん数字7個と全て一致。2等は中2個が本数字5個と一致、さらにボーナス数字2個のうち1個と一致。3等は中2個が本数字5個と一致、4等は中2個が本数字4個と一致、5等は中1個が本数字5個と一致、6等は中1個が本数字4個と一致、さらにボーナス数字1個と一致

名張事件 再審決定 主な経緯

- 1961年3月28日 三重県名張市の公民館で開かれた懇親会で、ぶどう酒を飲んだ女性5人が死亡
- 1964年9月 奥西勝元死刑囚に死刑判決
- 1969年10月 名古屋高裁が控訴棄却
- 1972年12月 最高裁が上告棄却、死刑確定
- 1981年6月 第1次再審請求
- 1985年8月 第2次再審請求
- 1988年4月 第3次再審請求
- 1989年5月 第4次再審請求
- 1997年5月 第5次再審請求
- 2002年4月 第6次再審請求
- 2005年4月 第7次再審請求
- 2006年12月 名古屋高裁が再審開始決定
- 2010年4月 名古屋高裁が再審開始決定を取り消し
- 2012年2月 最高裁が特別抗告を棄却、再審開始決定が確定
- 2012年5月 第8次再審請求
- 2013年10月 第9次再審請求
- 2015年10月 奥西元死刑囚が病死
- 2017年12月 名古屋高裁が第10次再審請求を棄却

肥後に当せん者 が分かることはありません

カーコンビニ倶楽部
カーコン車検
www.shineinet.com
●クルマは家族●
信栄自動車整備工場
TEL.092-771-9048